

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年6月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4571500471		
法人名	有限会社アドバンス工業		
事業所名	グループホームあけぼの苑		
所在地	宮崎県宮崎市田野町あけぼの2丁目32-1 (電話) 0985-86-5207		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年6月2日	評価確定日	平成21年6月30日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山の裾野に広がる新興住宅地の一角にあり、ホームは一般住宅と変わらぬ外観で周りの風景にとけ込んでいる。大きく開かれた門の前の道路を近隣の人が散歩し、子供達が行き交い、畑では農作業と牧歌的な風景の中で生活できる環境である。
ホームの介護理念は、「笑顔、安らぎ、優しい言葉」であり、職員が利用者により寄り添い穏やかな時間が流れている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）</p> <p>①地域との付き合い②日々のその人らしい暮らし③日常的な外出支援④災害対策は、運営者、管理者を中心に改善に向けて取り組みがなされている。⑤運営推進会議を活かした取組⑥同業者との交流を通じた向上⑦鍵をかけないケアの実践については、取り組みがまだ不十分である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）</p> <p>① 管理者のみが自己評価に当たっており、職員間の話し合い等の取り組みがないため、職員については評価の意義を十分に理解しているとは言い難い面がある。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）</p> <p>2か月に1回開催されているが、地域住民や行政の参加がない。討議の内容も形式的になっており、メンバーの率直な意見が引き出されておらず不十分である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）</p> <p>月1回家族あてにホーム通信を発行しており、個別には来訪時の声かけや電話等で連絡・報告し、家族の意見を表出する機会を積極的に作っている。苦情があった際、運営者が対応に当たっているが、他の職員への報告等が不十分であり、それを機に今後の具体的な取り組みを話し合う機会を設けていない。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）</p> <p>地域の文化祭に出展し鑑賞に出かけたり、近くの施設で行われる祭りにも参加している。また、当ホームの夕涼み会へも近隣に声かけをしている。散歩の折や近所の方が散歩される時に声かけするなど、ご近所との関係を築く取り組みをしている。</p>

【情報提供票より】（平成21年5月19日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤13人, 非常勤4人, 常勤換算6.55人	

（2）建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	1階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

（4）利用者の概要(平成21年5月19日現在)

利用者人数	16名	男性	2名	女性	14名
要介護1	6	要介護2	4		
要介護3	4	要介護4	0		
要介護5	2	要支援2	0		
年齢	平均 83.9歳	最低	70歳	最高	93歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	市立田野病院、小村歯科
---------	-------------

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念に基づいた介護理念があり、その実践に取り組んでいるが、事業所の理念が従来のものであり、地域密着型サービスとしての役割を目指したものにはなっていない。	○	事業所の理念が、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容になるよう全職員で確認しながら、理念の見直しをされることを望みたい。また、チラシ等を作成してその理念を地域へ発信する取組も期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング（カンファレンス）時に、必ず理念を意識できるよう職員で話し合っている。日々のケアで、理念（介護理念）に沿ったケアができるよう、管理者を中心に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭に出展し鑑賞に出かけたり、近くの施設の祭りにも出かけている。ホームの夕涼み会へも、近隣に声かけしている。利用者が散歩する時、また、近所の方が散歩されている時は声かけするなど、ご近所との関係づくりができるよう取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の作成に管理者のみが当たっており、職員との話し合い等がされていないため、全職員が評価を実施する意義を理解しているとは言い難い。評価の結果については、会議で話し合い改善に向けて取り組んでいる。	○	自己評価の過程で職員の意識の統一や、ケアの見直し等が可能になることから、サービス評価の意義や目的を職員に伝え、全員で評価に取り組むことを望みたい。

宮崎県宮崎市田野町 グループホームあけぼの苑

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1回開催されているが、メンバーに地域住民や行政の参加がない。また、協議内容についても内容が乏しく充実していない。	○	地域や行政に参加してもらえるよう、積極的な取組を望みたい。また、外部評価の結果を公表してメンバーから率直な意見を引き出せるようより積極的な取組も望みたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連絡調整は運営者が行っており、管理者はそれを担っていない。	○	管理者も市町村担当者と積極的にかかわり、事業所のケア等についての考え方や実態が、市町村担当者と共有できるような取組を望みたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	来訪時に、利用者の状況報告をしている。行事時の利用者の表情や日々の暮らしぶりについて、掲載したホーム通信を毎月発行している。金銭出納は整備され、家族のサインもあり処理は適切である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理簿の整備がされてない。苦情があった際、その対応に運営者があたっているが、他職員への報告、運営推進会議での報告が不十分である。	○	意見、苦情は前向きに受け止め適切な対応をするとともに、全職員で今後のサービスに反映させていくための話し合いをする取組を望みたい。また、運営推進会議で公表してメンバーの意見を聞く等の取組も望みたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定化し、顔なじみの職員がケアできる体制になっている。結婚等で退職した職員も子供を連れて行事の時に来訪しており、家族的なつながりができている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外の研修に積極的に参加している。極力多くの職員が受講できるよう配慮している。受講後は会議で復命し、研修内容を共有化しており、資料の整備もされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会には出席しているが、地域の同業種と交流する機会はない。	○	地域の他の同業者との交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問など、サービスの質の向上や職員育成のため積極的な取組を望みたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に病院等に訪問したり、見学に来てもらったりして顔なじみの関係をつくり、不安なく利用できるよう取り組んでいる。利用開始にあたっては、家族と相談しながら食事の席や話題を配慮し、なじみやすい雰囲気づくりに務めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者に寄り添い、共に支え合う関係づくりに留意している。職員は、利用者の昔の知恵や物語に耳を傾け、利用者の笑顔で元気を得ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、本人の意向の把握に努めている。また、家族の訪問時をとらえ情報を得るようにしている。思いをかなえるための取組みについては、全職員でよく話し合い前向きに取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的本人、家族と話し合いを持ち、その意向を反映した介護計画を担当者、管理者、ケアマネージャーが話し合いながら作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを実施している。また、利用者の状況に応じ、モニタリングの結果に応じた見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院の支援をしている。また、墓参り、ふるさと訪問等その時々々の要望に応じた支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医になっている。ホームはそのかかりつけ医との連携がとれている。近所の病院と嘱託契約をしており、いかなる時にも適切な医療を受けられる体制ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当ホームの現在の状況では、終末期の体制はできておらず、重度者は特別養護老人ホーム等に紹介することもある。利用開始時に重篤化した時の対応については、本人や家族と話し合いを持ち方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対してはさりげない声かけがされ、身体的な介助が必要な場合は個々の居室で行う等、プライバシーを損なわない対応がされている。個人情報の取り扱いも適切である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、洋裁、テレビ鑑賞、職員との会話等一人ひとりがそれぞれ共有スペースや前庭、各居室できままに過ごせる支援がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に声かけしながら、下ごしらえ、盛りつけ、配膳等できることを一緒に行い、食事の準備がされている。利用者と職員が一緒に食卓を囲み、和やかに食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日の午後の時間帯に、職員が見守りながら入浴支援がされている。一人ずつゆっくり楽しんでおり、職員と1対1の貴重な時間になっている。夜間帯についても、利用者の希望に沿う体制はある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の手伝い、掃除、洗濯物干し・たたみ、針仕事等、一人ひとりの力が発揮できるよう支援している。トランプやカラオケ等が共有スペースに置かれ、自主的に活動できるよう配慮されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午前中が戸外で過ごす時間になっており、それぞれ散歩したり、前庭でくつろいだりして過ごしている。月1回程度ドライブし、戸外に出かける機会もつくっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠されていないが、A棟の仕切り戸が、1名の利用者の行動を理由に施錠されていた。また、2カ所の非常口も施錠されていた。	○	日中鍵を掛けないで支援する努力や意識が大事であることから、行動に問題のある利用者の癖や傾向の把握に努め、見守り、声かけ、気晴らしの方法等で、鍵を掛けない取組を望みたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルがあり、年2回利用者と一緒に、消防署の協力も得て、避難訓練を実施している。また、日頃から近隣の住宅やアパートに声掛けして、協力がもらえるよう働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス等を考えたメニューになっており、医師の指導に対応し刻み食等の提供をしている。食事量は記録し、水分量についても配慮している。月1回外部栄養士にメニューのチェックを依頼し、指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は採光や風通しもよく、壁には文化祭の出展作品、外出時の利用者の笑顔あふれる写真が飾られている。また、ソファが置かれ、畳スペースがあり心地よく過ごせる空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた物や好みの物、また家族のプレゼントが持ち込まれ、それぞれが居心地よい居室になっている。		

※  は、重点項目。